

就職演習

授業の目的・概要

本授業では、就職活動に必要な基礎知識と実践的なスキルを習得し、希望する業界・職種への就職実現を目指すことを目的とする。自己分析やジョブカード作成を通して自身の強みや適性を理解するとともに、業界研究や企業研究を行い、職業観を養う。面接対策では、頻出質問や業界特有の質問への対応方法を学び、AI 面接や模擬面接を繰り返し実践することで、自己表現力やコミュニケーション能力を向上させる。また、研修旅行を活用した企業・施設見学を通じて仕事内容や職場環境への理解を深め、将来の進路選択に役立てる。さらに、入退室のマナーや席次、名刺交換などのビジネスマナーを習得し、社会人として求められる基本的な礼儀作法を身につける。授業全体を通して、主体的に就職活動へ取り組む姿勢と実践力を養い、円滑な社会人生活への準備を行う。

科	生命科学科	教員	萩野
コース	水族館ゼミ	教員の実務経験	社会人経験 8 年
対象年次	2 年	年間単位数	1 単位

目標

選考において動作・礼儀などのパフォーマンスを最大限に発揮し内定を獲得することができる。

頻出質問・業界特有質問の回答が適切に行えるように実践的に模擬面接や AI シミュレーションなどを用い準備を行うことができる。

授業計画

1 回 自己紹介、アイスブレイク

2 回 面接対策(頻出質問の紹介と対策)、ジョブカード作成(自己分析)

3 回 面接対策(業界特有の質問紹介と対策)、ジョブカード作成ジョブカード作成(自己分析)

研修旅行事前学習①—訪問先・施設調べ(グループワーク)

4 回 AI 面接アプリ紹介と対策

研修旅行事前学習②—就職先として見る視点・質問検討

5 回 AI 面接実践期間①

研修旅行事後学習①—見学内容の整理と共有

6 回 AI 面接実践期間②

研修旅行事後学習②—就職先としての魅力と課題

7 回 第 1 回模擬面接実践期間①

研修旅行事後学習③—就職先比較と理解の深化

8 回 第 1 回模擬面接実践期間②

- 9 回 入退室のマナーについて
- 10 回 入退室実践期間①
- 11 回 入退室実践期間②
- 12 回 入退室実践期間③
- 13 回 第 2 回模擬面接実践期間①
- 14 回 第 2 回模擬面接実践期間②
- 15 回 第 2 回模擬面接実践期間③
- 仕事内容理解①—就職先に想定される職種（含 研修旅行事前学習）
- 16 回 第 3 回模擬面接実践期間①
- 仕事内容理解②—職種別業務内容（含 研修旅行事前学習）
- 17 回 第 3 回模擬面接実践期間②
- 仕事内容理解③—1 日の仕事の流れ（含 研修旅行事前学習）
- 18 回 第 3 回模擬面接実践期間③
- 仕事内容理解④—必要な知識・技術・姿勢（含 研修旅行事前学習）
- 19 回 第 4 回模擬面接実践期間①
- 研修旅行事後学習①—仕事内容の整理
- 20 回 第 4 回模擬面接実践期間②
- 研修旅行事後学習②—仕事のやりがい・大変さ
- 21 回 第 4 回模擬面接実践期間③
- 研修旅行事後学習③—自分との適性を考える
- 22 回 席次①(座学)
- 23 回 席次②(座学)
- 24 回 席次③(実践)
- 25 回 席次④(実践)
- 26 回 名刺交換①(座学)
- 27 回 名刺交換②(座学)
- 28 回 名刺交換③(実践)
- 29 回 名刺交換④(実践)
- 30 回 総復習、振り返り

授業の方法

実戦経験を積むために就職や今後のキャリア形成に繋がる訓練を繰り返し行う。

教材

自作プリント

評価の方法

期末試験 50%、授業の取り組み意欲 50%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

面接質問の回答をノートに書き出しまとめる。

実務経験と授業科目の関係

実際の就活経験や社会人経験を踏まえ、学生のキャリア形成を支える。

プール・陸上実習

授業の目的・概要

本授業では、陸上およびプールでの実習を通して、基礎的な運動能力の向上と健康維持に必要な知識・技能を身につけることを目的とする。前期は、バスケットボールや各種球技の基礎技術を学ぶとともに、プール実習を中心にクロール・平泳ぎの泳法習得と泳力向上を目指す。また、スポーツ大会への参加や練習を通じて、協調性やコミュニケーション能力を養う。後期は、バドミントン、バレーボール、ドッジボールなどの種目に取り組み、それぞれの基本技術やルールを理解しながら実践的な運動能力を高める。さらに、試合形式の活動や体力測定を通じて、自己の体力や課題を把握し、継続的な健康管理への意識を育成する。授業全体を通して、スポーツを楽しむ姿勢とチームワークの重要性を学び、社会人として必要な協調性や主体性を身につけることを目指す。

科	生命科学科	教員	神垣・荒田・前田拓
コース	水族館ゼミ	教員の実務経験	ダンスインストラクター15年 鯨類水中ショートトレーナー3年 スポーツ用品店販売員9年
対象年次	2年	年間単位数	2単位

目標

1. ルール、マナー、協調性の理解と育成

→競技ごとのルールや、安全に活動するためのマナー、仲間と協力する力やコミュニケーション力を養う。

2. 健康意識の向上

→運動の大切さを理解し、日常生活でも健康を意識する習慣を身につける。

3. 記録への挑戦

→目標を立てて記録向上を目指すことで、達成感や努力する姿勢を身につける。

授業計画

前期

- 第1週 授業説明(実施場所、用具取り扱い、注意点)・アイスブレイク・各スポーツ練習試合基礎
- 第2週 バスケット(レイアップ・フリースロー基礎)
- 第3週 バスケット(ドリブル・5対5練習試合)
- 第4週 プール実習①一泳力小テスト
- 第5週 各競技試合(バスケット・バドミントン・バレー・ドッチボール等)
- 第6週 スポーツ大会練習期間
- 第7週 スポーツ大会練習期間
- 第8週 プール実習②一クロール 100m
- 第9週 プール実習③一クロール 150m
- 第10週 プール実習④一クロール 200m
- 第11週 プール実習⑤一平泳ぎ 100m
- 第12週 プール実習⑥一平泳ぎ 150m
- 第13週 プール実習⑦一平泳ぎ 200m
- 第14週 各競技試合(バスケット・バドミントン・バレー・ドッチボール等)
- 第15週 プール実習試験対策
- 第16週 前期試験期間(プール実習)
- 第17週 前期試験採点期間 前期のまとめ・プール実習
- 第18週 前期試験返却期間(プール実習)

後期

- 第19週 バドミントン(素振り・リフティング基礎)
- 第20週 バドミントン(下半身を鍛えるフットワーク基礎)
- 第21週 バドミントン(2対2練習試合)
- 第22週 バレーボール(パス・レシーブ基礎)
- 第23週 バレーボール(サーブ・スパイク基礎)
- 第24週 バレーボール(6対6練習試合)
- 第25週 ドッジボール(投げ合い練習基礎)
- 第26週 ドッジドッチボール(攻撃・守備・セーフ・アウト基礎)②
- 第27週 ドッチボール(チーム分け対抗試合)
- 第28週 バレーボール(パス・レシーブ基礎)
- 第29週 バレーボール(サーブ・スパイク基礎)
- 第30週 バレーボール(6対6練習試合)
- 第31週 後期試験テスト練習(シャトルラン)①
- 第32週 後期試験テスト練習(シャトルラン)②
- 第33週 後期試験期間(シャトルラン)

第 34 週 後期試験返却期間 (後期のまとめ・実習 (各スポーツ練習) ①)
 第 35 週 後期試験返却期間 (各スポーツ練習試合)②

授業の方法

実技・プール

教材

なし

評価の方法

期末試験 40%、平常点 40%、出席 20%

平常点は、授業態度と問題演習への取り組みを総合的に評価する。

授業外での学習方法

各自、授業外でのストレッチや補強トレーニング

実務経験と授業科目の関係

主にルール、マナー、協調性への理解は社会に出ていく中で、必要不可欠なものになるので、自身の実体験を含めながら説明していく。

インターンシップⅡ

授業の目的・概要

本授業は、動物業界への就職を目指す学生が、インターンシップを通じて実際の職場環境を体験し、専門知識・技術の実践力を養うことを目的とする。動物病院、ペットショップ、トリミングサロン、ペットホテル、動物福祉施設などの現場において、動物の飼養管理や健康観察、接客対応、衛生管理、チームでの業務遂行などを体験し、職業人として求められる責任感やコミュニケーション能力を身に付ける。また、現場での体験を通じて自己の適性や課題を把握し、将来の進路選択や就職活動に役立てることを目指す。事前指導では職業倫理や安全管理について学び、実習後には振り返りと成果報告を行うことで、学習成果の定着とキャリア形成につなげる。

科	生命科学科	教員	林
コース	全ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2 年次	年間単位数	1 単位

目標

- ・動物業界の現場における業務内容や役割を理解し、基本的な業務を適切に実践できる。
- ・動物の飼養管理、健康観察、衛生管理などに関する実践的な知識・技術を身に付ける。
- ・職業人として必要なビジネスマナー、コミュニケーション能力、協調性を身に付け、円滑に行動できる。
- ・インターンシップで得た経験を振り返り、自身の適性や課題を把握するとともに、将来の進路選択や就職活動に活かすことができる。

授業計画

- 第 1 回 インターンシップ概要説明・目的理解・受入先の紹介
- 第 2 回 ビジネスマナー・職業倫理・安全管理・注意事項説明
- 第 3 回 インターンシップ① 施設理解とオリエンテーション
- 第 4 回 インターンシップ② 施設見学と業務内容の把握
- 第 5 回 インターンシップ③ 接客・来客対応の補助
- 第 6 回 インターンシップ④ 電話対応・受付業務の補助
- 第 7 回 インターンシップ⑤ 施設内清掃・衛生管理業務
- 第 8 回 インターンシップ⑥ 飼育環境の整備と安全確認
- 第 9 回 インターンシップ⑦ 動物の健康観察と記録
- 第 10 回 インターンシップ⑧ 給餌・給水業務の補助
- 第 11 回 インターンシップ⑨ 動物の保定補助
- 第 12 回 インターンシップ⑩ 日常ケア業務の補助
- 第 13 回 インターンシップ⑪ 施設備品・消耗品管理

第 14 回	インターンシップ⑫	顧客対応・コミュニケーション実践
第 15 回	インターンシップ⑬	チーム業務への参加
第 16 回	インターンシップ⑭	担当業務の実践①
第 17 回	インターンシップ⑮	担当業務の実践②
第 18 回	インターンシップ⑯	担当業務の実践③
第 19 回	インターンシップ⑰	担当業務の実践④
第 20 回	インターンシップ⑱	担当業務の実践⑤
第 21 回	インターンシップ⑲	担当業務の実践⑥
第 22 回	インターンシップ⑳	担当業務の実践⑦
第 23 回	インターンシップ㉑	担当業務の実践⑧
第 24 回	インターンシップ㉒	担当業務の実践⑨
第 25 回	インターンシップ㉓	担当業務の実践⑩
第 26 回	インターンシップ㉔	担当業務の実践⑪
第 27 回	インターンシップ㉕	担当業務の実践⑫
第 28 回	インターンシップ㉖	担当業務の実践⑬
第 29 回	インターンシップ㉗	担当業務の実践⑭
第 30 回	インターンシップ㉘	担当業務の実践⑮
第 31 回	インターンシップ㉙	担当業務の実践⑯
第 32 回	インターンシップ㉚	担当業務の実践⑰
第 33 回	インターンシップ㉛	担当業務の実践⑱
第 34 回	インターンシップ㉜	総合実践・就業力向上
第 35 回	インターンシップ成果報告会・振り返り・自己評価と今後の課題整理	

授業の方法

インターンによる実践。

教材

必要な資料を概要説明時に配布する。

評価の方法

インターンへの参加意欲 20%、企業の評価 50%、レポート提出 30%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習では、受入先の業務内容や業界動向について調べるとともに、ビジネスマナーや安全管理、動物の飼養管理に関する基礎知識を復習する。事後学習では、実習日誌や記録を整理し、実習で得た知識・技術や課題を振り返ることで理解を深め、今後の学習や就職活動に活かす。

実務経験と授業科目の関係

教育・研究に従事するとともに、大学生の進路指導やキャリア支援に携わった経験を有する。本授業では、その経験を活かし、インターンシップにおける職業意識の形成や社会人基礎力の向上を支援するとともに、実習経験を将来の進路選択や就職活動につなげるための指導を行う。

特別活動Ⅱ

授業の目的・概要

学校行事への参加を通じて、専門分野への理解を深めるとともに、協調性や主体性、社会性を養う。各種行事における事前準備、参加、振り返りを通じて学びを深化させ、将来の職業人として必要な資質の向上を目指す。

科	生命科学科	教員	林
コース	全ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2 年次	年間単位数	1 単位

目標

- ・学校行事の目的や意義を理解し、主体的に参加できる。
- ・行事を通じて専門分野への理解を深め、学びを実践に結び付けることができる。
- ・他者と協力しながら活動に取り組み、協調性や社会性を身に付ける。
- ・行事で得た経験を振り返り、自己の成長や課題を今後の学習・進路選択に活かすことができる。

授業計画

- 第 1 回 特別活動の目的と年間計画の理解
- 第 2 回 学校行事に参加する意義と学習目標の設定
- 第 3 回 研修旅行事前学習①（研修目的の理解）
- 第 4 回 研修旅行事前学習②（訪問先・業界研究）
- 第 5 回 研修旅行事前学習③（グループ活動計画の作成）
- 第 6 回 研修旅行事前学習④（安全管理・マナーの確認）
- 第 7 回 研修旅行事前学習⑤（事前調査の共有）
- 第 8 回 研修旅行への参加
- 第 9 回 研修旅行振り返り①（体験内容の整理）
- 第 10 回 研修旅行振り返り②（学習成果の共有）
- 第 11 回 校外実習事前学習①（実習目的の理解）
- 第 12 回 校外実習事前学習②（実習先研究）
- 第 13 回 校外実習事前学習③（安全管理とマナー）
- 第 14 回 校外実習事前学習④（学習課題の設定）
- 第 15 回 校外実習への参加
- 第 16 回 校外実習振り返り①（活動内容の整理）
- 第 17 回 校外実習振り返り②（成果と課題の分析）
- 第 18 回 KAP エキスポ事前学習①（イベントの目的と業界動向の理解）

- 第 19 回 KAP エキスポ事前学習②（企業研究・出展内容の確認）
- 第 20 回 KAP エキスポ事前学習③（見学計画の作成）
- 第 21 回 KAP エキスポ事前学習④（質問事項の作成）
- 第 22 回 KAP エキスポへの参加
- 第 23 回 KAP エキスポ振り返り①（見学内容の整理）
- 第 24 回 KAP エキスポ振り返り②（学習成果の共有）
- 第 25 回 卒業研究発表会事前学習①（研究テーマの理解）
- 第 26 回 卒業研究発表会事前学習②（発表の着眼点と評価方法）
- 第 27 回 卒業研究発表会事前学習③（専門知識の整理）
- 第 28 回 卒業研究発表会への参加
- 第 29 回 卒業研究発表会振り返り・学習成果の共有
- 第 30 回 年間活動の総括（自己評価・今後の目標設定）

授業の方法

演習形式で進めていき、グループワークや意見交換を積極的に取り入れていく。

教材

特にないが、必要に応じて資料を配布していく。

評価の方法

授業への参画 30%、成果発表 50%、レポート提出 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習では、各行事の目的や内容、関連する業界・専門知識について調査し、学習課題を明確にする。事後学習では、活動記録やレポートを作成し、得られた知識や気づきを整理するとともに、自身の成長や課題を振り返り、今後の学習や進路形成に活かす。

実務経験と授業科目の関係

教育・研究に従事するとともに、大学生の進路指導やキャリア支援に携わった経験を有する。本授業では、その経験を活かし、各種学校行事への参加を通じた主体的な学びや職業意識の形成を支援する。また、活動前後の目標設定や振り返りを通じて、行事で得た経験を自己成長やキャリア形成につなげられるよう指導を行う。

動物関連法規学Ⅱ

授業の目的・概要

本授業では、動物関連業界で必要となる法令や制度について学び、動物の適正な取り扱いと自然環境の保全に関する法的知識を習得することを目的とする。外来種問題や外来生物法を中心に、外来生物の定義や導入経路、規制対象となる生物、法令の目的や罰則について理解を深める。また、野生生物の国際取引を規制するワシントン条約や、希少野生動植物の保護を目的とした種の保存法について学び、国内外における生物多様性保全の取り組みを理解する。さらに、鳥獣保護法、漁業法、水産資源保護法などの関連法規についても学習し、野生動物や水産資源の適正な管理・利用に関する知識を身につける。授業を通して、法令遵守の重要性を理解し、動物関連産業に従事する専門職として必要な倫理観と責任感を養うことを目指す。

科	生命科学科	教員	井田 竜馬
コース	水族館ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2年	年間単位数	1単位

目標

前期

外来生物法、ワシントン条約などについて理解できるようになる。

後期

種の保存法、鳥獣保護法、漁業系の法律などについて理解できるようになる。

授業計画

- 1回 外来種と外来生物（1）言葉の定義
- 2回 外来種と外来生物（2）導入経路 その1
- 3回 外来種と外来生物（3）導入経路 その2
- 4回 外来生物法（1）施行年、目的など
- 5回 外来生物法（2）特定外来生物 その1
- 6回 外来生物法（3）特定外来生物 その2
- 7回 外来生物法（4）特定外来生物 その3
- 8回 外来生物法（5）未判定外来生物、種類名証明書が必要な生物
- 9回 外来生物法（6）罰則
- 10回 ワシントン条約（1）日本語と英語の正式名称
- 11回 ワシントン条約（2）条約の成立背景、プロフィールなど
- 12回 ワシントン条約（3）レッドリストとの違い

- 13回 ワシントン条約（4）留保
- 14回 ワシントン条約（5）附属書Ⅰについて その1
- 15回 ワシントン条約（6）附属書Ⅰについて その2
- 16回 ワシントン条約（7）附属書Ⅱ、附属書Ⅲ
- 17回 種の保存法（1）法律の概要
- 18回 種の保存法（2）国内希少野生動植物種 その1
- 19回 種の保存法（3）国内希少野生動植物種 その2
- 20回 種の保存法（4）国内希少野生動植物種 その3
- 21回 種の保存法（5）国際希少野生動植物種 その1
- 22回 種の保存法（6）国際希少野生動植物種 その2
- 23回 種の保存法（7）国際希少野生動植物種 その3
- 24回 種の保存法（8）緊急指定種
- 25回 鳥獣保護法（1）
- 26回 鳥獣保護法（2）、
- 27回 漁業法（1）
- 28回 漁業法（2）
- 29回 水産資源保護法（1）
- 30回 水産資源保護法（2）

授業の方法

講義

教材

テキスト、自作のプリント

評価の方法

試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

1回1回の授業ノートに関してポイントを各自纏めなおし、随時チェックする。

実務経験と授業科目の関係

長らくペットや野生動物分野の許認可を含む法律事務に関わる業務を行っており、ペットビジネスのサポートを行っている。それらの経験を下地に、プロとして動物に関わっていくために必要な知識などを解説

していく。

水槽管理概論実習Ⅱ

授業の目的・概要

本授業では、アクアリウムおよび水族館業界において必要となる水槽管理の基礎知識と実践技術を習得し、生体に適した飼育環境を維持・管理できる能力を養うことを目的とする。前期では、淡水・海水水槽のレイアウト技法や展示計画、水草・サンゴの育成管理、水質・照明による色揚げ技術について学ぶとともに、水族館における生体搬入、健康管理、日常メンテナンス、トラブル対応などの実務知識を習得する。後期では、生体の仕入れや販売、繁殖に関する知識を学び、ベタの繁殖実習を通して環境整備から繁殖、稚魚育成、経過観察までを実践的に経験する。さらに、観察結果の記録・分析・発表を行うことで、飼育管理に必要な観察力や問題解決能力を養う。授業全体を通して、水槽管理の専門技術と生体福祉への理解を深め、アクアリウム業界で活躍できる実践的な人材の育成を目指す。

科	生命科学科	教員	潮見玲和
コース	水族館ゼミ	教員の実務経験	アクアリウムショップ勤務歴 8 年
対象年次	2 年	年間単位数	3 単位

目標

- ・ただ飼育するだけでなく、繁殖や色揚げ等のよりコアな知識技術を身につける
- ・水槽内のレイアウトや水槽周りの展示の仕方について、人に魅せる知識技術を身につける
- ・生体の仕入れ→管理→販売の流れを理解する
- ・長期飼育と飼育管理の違いを理解する

授業計画

[前期]

第1週 前期授業について

第2週 レイアウトについて淡水編 Ver.2(世界水草レイアウトコンテスト含む)

第3週 レイアウトについて海水編 Ver.2

第4週 水槽の展示について①-コンセプト設定

第5週 水槽の展示について②-アウトプット

第6週 長期飼育と飼育管理についての違い

第7週 水草の色揚げについて①-水質編

第8週 水草の色揚げについて②-照明編

第9週 サングの色揚げについて①-水質編

第10週 サングの色揚げについて②-照明編

第11週 水族館での水槽管理①-生体の搬入

第12週 水族館での水槽管理②-生体の健康管理

第13週 水族館での水槽管理③-日々のメンテナンス

第14週 水族館での水槽管理④-トラブル対応

第15週 前期内容の振り返り

第16週 前期試験

第17週 前期のまとめ・調べ学習

第18週 試験返却・試験の振り返り

[後期]

第19週 後期の授業について

第20週 生体の仕入れについて

第21週 生体の販売について

第22週 繁殖について

第23週 ベタの繁殖実習①-繁殖方法を知り、環境整備を行う

第24週 ベタの繁殖実習②-実際の繁殖行動を観察する

第25週 ベタの繁殖実習③-繁殖行動から経過観察を行う

第26週 ベタの繁殖実習④-稚魚の育成を行う

- 第 27 週 ベタの繁殖実習⑤-稚魚の育成を行う
- 第 28 週 ベタの繁殖実習⑥-稚魚の育成を行う
- 第 29 週 ベタの繁殖実習⑦-成果を資料にまとめる
- 第 30 週 後期の振り返り
- 第 31 週 後期試験
- 第 32 週 後期のまとめ・調べ学習
- 第 33 週 試験返却・試験の振り返り
- 第 34 週 2 年間総括①-これまでの授業を振り返って
- 第 35 週 2 年間総括②-これから水槽管理の仕事をしていくうえで大切なこと

授業の方法

各必要知識に対する座学講義と、地下実習室の水槽を用いた実技実習を行う。

教材

適宜必要な資料の配布を行う。

また地下実習室の水槽を教材とし日々の授業に活用する。

評価の方法

試験 40%、授業への参画 20%、課題への取り組み 40%で総合的に判断する。

授業外での学習方法

授業内容をノートにまとめて、次回の授業時に提出する。

地下の実習水槽の管理。

実務経験と授業科目の関係

移動水族館業務 2 年、アクアリウムショップ勤務 8 年の実務経験から、現場で必要とされる最新の知識技術を伝える講義を行う。

水族館ゼミ演習Ⅰ

授業の目的・概要

水族館・ショップ・水産業界への就職を見据え、業界理解と自己分析を通して、自身の強みや適性を明確化し、それを効果的に表現する力を養う。さらに、現場理解を深め、課題発見および改善提案ができる基礎的な力を育成する。

科	生命科学科	教員	荒田 あかね
コース	水族館ゼミ	教員の実務経験	水族館飼育員 3 年半
対象年次	2 年	年間単位数	1 単位

目標

自己分析に基づいて自身の強みや適性を言語化し、水族館・ショップ・水産業界に即した自己 PR や志望動機を構築するとともに、現場の課題に対して具体的な改善案を提案できるようになる。

授業計画

- 第 1 回 年間計画
- 第 2 回 就職活動について
- 第 3 回 インターンシップについて
- 第 4 回 履歴書作成レクチャー
- 第 5 回 自己分析
- 第 6 回 他己分析
- 第 7 回 履歴書作成
- 第 8 回 履歴書修正
- 第 9 回 面接対策（１）－過去のデータ閲覧
- 第 10 回 面接対策（２）－過去データをもとに質問事項の作成
- 第 11 回 面接対策（３）－質問事項共有会

- 第 12 回 面接対策（４）－質問事項の返答作成
- 第 13 回 面接対策（５）－質問事項の返答（隣の人と意見交換）
- 第 14 回 面接対策（６）－質問事項の修正
- 第 15 回 前期のまとめ・調べ学習
- 第 16 回 就活状況報告書作成（１）－前期を終えて
- 第 17 回 面接実践練習準備
- 第 18 回 面接実践練習（１）－１対１
- 第 19 回 面接実践練習（２）－ペア変更して１対１
- 第 20 回 面接実践練習（３）－グループ面接練習（※グループ変更）
- 第 21 回 面接実践練習（４）－グループ面接練習（※グループ変更）
- 第 22 回 面接実践練習（５）－グループ面接練習（※グループ変更）
- 第 23 回 面接実践練習（６）－グループ面接練習（※グループ変更）
- 第 24 回 就職活動/地下水族館の状況把握
- 第 25 回 就職活動/地下水族館の状況共有
- 第 26 回 就職活動/地下水族館の改善案検討
- 第 27 回 就職活動/地下水族館の改善案まとめ
- 第 28 回 就職活動/地下水族館の改善案を１年生へ共有
- 第 29 回 就活状況報告書作成（２）－１年を終えて
- 第 30 回 後期のまとめ・調べ学習

授業の方法

講義、実践

教材

なし

評価の方法

成果発表 60%、授業への参加意欲・課題への取り組み 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

就職活動を行う企業について調べ、まとめる。

実務経験と授業科目の関係

元水族館飼育員の経験を活かし、履歴書の作成や面接について指導する。

水族館ゼミ演習Ⅱ

授業の目的・概要

水族館に関連するイベントの企画運営を行うことで、動物の魅力の伝え方や展示方法を習得する。
これまでの講義・演習で学んだ知識を生かし、卒業研究に必要な一連の作業を実施する。

科	生命科学科	教員	荒田 あかね
コース	水族館ゼミ	教員の実務経験	水族館飼育員 3 年半
対象年次	2 年	年間単位数	4 単位

目標

イベントの企画・運営を通して動物の魅力を効果的に伝える方法や適切な展示手法を習得する。
また、学生がこれまでの講義や演習で得た知識・技術を活用し、卒業研究に必要な一連の作業を計画的かつ主体的に実施できる力を身に付ける。

授業計画

- 第1週 自己紹介、アイスブレイク
- 第2週 地下水族館運営再編成/1年生へ引継ぎ準備
- 第3週 1年生へ引継ぎ準備・引継ぎ
- 第4週 卒業研究テーマ設定
- 第5週 水族館基礎業務について（1）ー基礎体力作り
- 第6週 水族館基礎業務について（2）ーグループ活動の実践
- 第7週 【水族館 OC】 イベント企画
- 第8週 【水族館 OC】 イベント企画決定
- 第9週 【水族館 OC】 イベント準備（1）ー班作成・役割決定
- 第10週 【水族館 OC】 イベント準備（2）ー班ごとに企画案作成
- 第11週 【水族館 OC】 イベント準備（3）ー班ごとに展示物作成

第12週	【水族館 OC】 イベント準備（4）ー装飾
第13週	【水族館 OC】 イベント準備（5）ー全体像完成・修正
第14週	【水族館 OC】 イベント準備（6）ー当日の役割決定・評価
第15週	【水族館 OC】 イベントについて振り返り
第16週	前期試験
第17週	前期のまとめ・調べ学習
第18週	試験返却・試験の振り返り
第19週	卒業研究取り組み（1）ー仮定のデータ化
第20週	卒業研究取り組み（2）ー研究方法のデータ化
第21週	卒業研究取り組み（3）ー図や表の作成
第22週	卒業研究取り組み（4）ー結果のデータ化
第23週	卒業研究取り組み（5）ー考察のデータ化
第24週	卒業研究取り組み（6）ーデータ完成
第25週	卒業研究取り組み（7）ー原稿作成
第26週	卒業研究発表データ最終調整
第27週	地下水族館引継ぎ計画
第28週	地下水族館引継ぎ完了
第29週	卒業研究発表リハーサル
第30週	卒業研究発表準備ー修正
第31週	後期試験
第32週	後期のまとめ・調べ学習
第33週	試験返却・試験の振り返り
第34週	水族館運営演習（1）ーイベント展示物作成
第35週	水族館運営演習（2）ーイベント装飾

イベント企画や準備を学生主体で行い、実践する。また、卒業研究は段階を踏んでデータを作成させる。

教材

なし

評価の方法

成果発表 60%、授業への参加意欲 20%、課題への取り組み 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

卒業研究発表に向けて各自研究を進めていく。

実務経験と授業科目の関係

元水族館飼育員の経験を活かし、水族館の運営やイベント企画・運営を指導する。

水族館ゼミ特殊演習

授業の目的・概要

アクア業界への就職に向けて、飼育管理に必要な、観察力、知識、判断力を養うことを目的とし、地下に設置された水槽設備を利用して生体に調餌、給餌、掃除に関する実習を行う。

科	生命科学科	教員	姉崎
コース	水族館ゼミ	教員の実務経験	-
対象年次	2 年	年間単位数	4 単位

目標

観察力の育成

生体管理を通じて、ただ作業するだけでなく、作業中も生体や周囲の状況を観察し、生体の状態や周囲の状況を把握する力を習得する。

知識の習得

水槽設備の仕組み、生体に合う餌の選別、加工する知識、水質の測定、など生体管理の知識を実際に取り扱いながら習得する。

判断力の向上

観察、知識から得られた異変に対して、適切な処置を即座に判断、実行できる能力を養う。

水族館などの施設の管理や展示の形態について学び地下の水族館の運営に生かす。

授業計画

- 第1週 授業の概要の説明
- 第2週 地下生体管理実習 展示と解説
- 第3週 地下生体管理実習 展示計画と実施
- 第4週 地下生体管理実習 展示技法
- 第5週 地下生体管理実習 魚類の展示 外洋性魚類

第 6 週	地下生体管理実習	魚類の展示 沿岸性魚類
第 7 週	地下生体管理実習	魚類の展示 深海性、淡水性魚類
第 8 週	地下生体管理実習	施設管理と運用
第 9 週	地下生体管理実習	水槽設備 防水
第 10 週	地下生体管理実習	水槽設備 アクリルパネル
第 11 週	地下生体管理実習	水槽設備 ディスプレイ
第 12 週	地下生体管理実習	水槽設備 照明
第 13 週	地下生体管理実習	飼育水の管理 取水設備
第 14 週	地下生体管理実習	飼育水の管理 取水設備
第 15 週	地下生体管理実習	飼育水の管理 前処理設備
第 16 週	前期試験	試験実施
第 17 週	前期授業復習	前期授業振り返り
第 18 週	前期試験返却	試験返却
第 19 週	地下生体管理実習	飼育水の管理 ろ過循環設備
第 20 週	地下生体管理実習	飼育水の管理 薬注装置①
第 21 週	地下生体管理実習	飼育水の管理 薬注装置②
第 22 週	地下生体管理実習	飼育水の管理 温度調整装置①
第 23 週	地下生体管理実習	飼育水の管理 温度調整装置②
第 24 週	地下生体管理実習	飼育水の管理 空気源装備①
第 25 週	地下生体管理実習	飼育水の管理 空気源装備②
第 26 週	地下生体管理実習	飼育水の管理 排水処理施設
第 27 週	地下生体管理実習	飼育施設における危機管理
第 28 週	地下生体管理実習	防災 実際の災害①
第 29 週	地下生体管理実習	防災 実際の災害②
第 30 週	地下生体管理実習	事故 人身事故①
第 31 週	後期試験	試験実施

第 32 週	後期授業復習	後期授業振り返り
第 33 週	後期試験返却	試験返却
第 34 週	地下生体管理実習	事故 人身事故②
第 35 週	地下生体管理実習	事故 生物由来の事故

授業の方法

板書を用いた講義、水槽設備を使用した実習

教材

授業で使用する教材については、必要に応じて授業中に適宜配布していく。

評価の方法

試験 80%、授業への参画、課題への取り組み 20%、で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事後学習として、授業内容で疑問に思ったことを抽出し、自分で調べてみた結果をノートに整理しておくこと。

実務経験と授業科目の関係

・

アクアリウム用品学

授業の目的・概要

本授業では、アクアリウム業界で必要となる各種器材・用品に関する専門知識を体系的に学び、適切な選定・運用・管理ができる能力を養うことを目的とする。前期では、フィルターや濾過材、照明、水温管理機器、水槽設備、底床材、レイアウト用品、給餌用品などの基本機材について、その構造や機能、特徴を理解し、飼育環境に応じた活用方法を学ぶ。後期では、魚病薬や水質検査器具、添加剤、CO₂添加設備、水流ポンプ、配管設備など、より専門的な機材の知識を深めるとともに、安全管理やメンテナンス用品の使用方法についても習得する。さらに、アクアリウムメーカーの特徴や、水族館で使用される大型設備・機材についても学び、幅広い視点から飼育管理技術への理解を深める。これらを通して、生体に適した環境づくりと安全で効率的な飼育管理を実践できる人材の育成を目指す。

科	生命科学科	教員	潮見玲和
コース	水族館ゼミ	教員の実務経験	アクアリウムショップ勤務歴 8 年
対象年次	2 年	年間単位数	1 単位

目標

- ・1 年生で学習した内容を更に深く学習し理解する
- ・各用品の種類、用途を理解する
- ・各用品の主なメーカーや商品を知り、それぞれの特徴について理解する
- ・各用品の具体的な使用方法を身につける
- ・各用品について、第三者へ説明、提案できるようになる

授業計画

[前期]

第1回 自己紹介、授業についての案内

第2回 フィルターの種類、構造について Ver.2

第3回 フィルターの選び方についてと、実機を用いた解説 Ver.2

第4回 プロテインスキマー、リアクター、水中ポンプについて

第5回 濾過材の種類と特徴、バクテリア材について Ver.2

第6回 人工海水、塩分濃度計、浄水器について

第7回 殺菌灯について

第8回 ライトについて①-(淡水用ライト)Ver.2

第9回 ライトについて②-(海水用ライト)Ver.2

第10回 水温管理器具について(ヒーター、クーラー)Ver.2

第11回 水槽、キャビネットについて(オールインワン水槽含む)Ver.2

第12回 ソイル、底砂、ライブロックについて

第13回 レイアウト資材、レイアウト用品について

第14回 餌について

第15回 掃除用具について

[後期]

第16回 前期の振り返り、総括、質疑応答

第17回 魚病薬について

第18回 水質検査器具について Ver.2

第19回 添加剤、水質調整剤について(ドージングポンプ等含む)

第20回 CO2 添加器具について

第21回 水流ポンプについて

第22回 塩ビ配管について

第23回 電源タップの扱い方

第24回 その他レイアウト系用品(バックパネル、ミストメーカー、接着剤、コーラルレンズ等)

第25回 その他メンテナンス系用品(網、ピンセット、スポイト、自動給水装置、タイマー、ワーム

トラップ等)

第 26 回 その他飼品(バンドソー、サンゴ害虫駆除薬、サンゴメンテナンス薬等)

第 27 回 様々なアクアリウムメーカーについて

第 28 回 番外編～水族館で使用する機材～①-水質管理関連

第 29 回 番外編～水族館で使用する機材～②-照明、その他健康管理関連

第 30 回 後期の振り返り、総括、質疑応答

授業の方法

- ・配布資料やモニターを用い、アクアリウム用品についての基礎知識を学ぶ。
- ・学生自身の端末で調べ物学習を行い、自分で調べる力を付ける。
- ・実践的に機材の実機に触れ、ばらしたり組み立てたりすることで、実際の扱い方を学ぶ。

教材

- ・黒板への板書とプリント資料の配布
必要に応じて、画像情報を含め、板書に追加しプリント資料を配布する。アクアリウム用品は常に新商品の発売等もあり情報が更新されていくため、適宜最新の情報を資料に組み込み配布する。
- ・機材の実機を用いた演習講義

評価の方法

試験 40%、授業への参画 20%、課題への取り組み 40%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

授業内容をノートにまとめる。

ノートには授業内容での疑問や質問を授業毎に 1 つ以上書くことをルールとする。

用品について調べ物学習を行う。

実務経験と授業科目の関係

移動水族館業務やアクアリウムショップ勤務等、業界で約 8 年勤務した経験から、必要となるアクアリウ

2026 年度

△用品の知識、扱い方を現場目線で伝える講義を行う。

エキゾチックアニマルⅡ

授業の目的・概要

エキゾチックアニマルの生態・習性・飼育管理に関する基礎知識を習得し、各動物種に応じた適切な取り扱いができる能力を身につけることを目的とする。これにより、動物関連業界への就職に必要な実践的知識の基盤を養う。

科	生命科学科	教員	伊勢 朱里
コース	水族館ゼミ	教員の実務経験	ペットショップスタッフ2年
対象年次	2年	年間単位数	1単位

目標

前期

- ・エキゾチックアニマル（チンチラ、デグー、ハリネズミ）について、分類・歴史・生態・特徴を理解することができる。
- ・適切な飼育管理、繁殖および代表的な疾病に関する基礎知識を習得することができる。
- ・各動物種の特性に応じた取り扱いができる基礎的な判断力を身につける。

後期

- ・エキゾチックアニマル（フクロモモンガ、シマリス、プレーリードッグ、リチャードソンジリス、鳥類）についての理解を深め、より専門性の高い飼育管理および健康管理に関する知識を習得することができる。
- ・複数種に対応できる応用的な知識と判断力を養い、動物関連業界において実務に活かせる対応力を身につけることができる。

授業計画

- 1回 チンチラ①—分類、歴史について
- 2回 チンチラ②—体の特徴について
- 3回 チンチラ③—生理的な特徴について
- 4回 チンチラ④—飼育方法について
- 5回 チンチラ⑤—繁殖、病気について
- 6回 デグー①—分類、歴史について
- 7回 デグー②—体の特徴について
- 8回 デグー③—生理的な特徴について

- 9回 デグー④—飼育方法について
- 10回 デグー⑤—繁殖、病気について
- 11回 ハリネズミ①—分類、歴史について
- 12回 ハリネズミ②—体の特徴についてについて
- 13回 ハリネズミ③—生理的な特徴について
- 14回 ハリネズミ④—飼育方法について
- 15回 ハリネズミ⑤—繁殖、病気について
- 16回 フクロモモンガ①—分類、歴史について
- 17回 フクロモモンガ②—体の特徴について
- 18回 フクロモモンガ③—生理的な特徴について
- 19回 フクロモモンガ④—飼育方法について
- 20回 フクロモモンガ⑤—繁殖、病気について
- 21回 シマリス①—分類、歴史について
- 22回 シマリス②—体・生理的な特徴について
- 23回 シマリス③—飼育方法について
- 24回 シマリス④—繁殖、病気について
- 25回 ブレーリードッグ、リチャードソン・ジリス①—分類、歴史、特徴について
- 26回 ブレーリードッグ、リチャードソン・ジリス②—飼育、繁殖、病気について
- 27回 鳥類①—種類について
- 28回 鳥類②—特徴について
- 29回 鳥類③—飼育について
- 30回 鳥類④—病気について

授業の方法

講義

教材

『カラーアトラスエキゾチックアニマル 哺乳類編 第3版—種類・生態・飼育・疾病—』

著：霍野 晋吉、横須賀 誠 出版社：緑書房

『カラーアトラスエキゾチックアニマル 鳥類編 第2版—種類・生態・飼育・疾病—』

著：霍野 晋吉 出版社：緑書房

評価の方法

試験 80%、課題への取り組み 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

次の単元のキーワードになると思うページ数を指定し、予め調べてノートにまとめておくことを事前学習とする。また、事後学習として、授業内容で疑問に思ったことを抽出し、自分で調べてみた結果をノートに整理しておくこと。

実務経験と授業科目の関係

ペットショップの小動物部門における実務経験を有しており、現場での飼育管理や販売、顧客対応の経験に基づき、エキゾチックアニマルに関する実践的な知識を教授する。これにより、学生の就職後を見据えた実務対応力の育成を図る。

海洋生態学Ⅱ

授業の目的・概要

本授業では、海洋生態学を総合的に理解することを目的とし、海洋環境の仕組みと海洋生物の生態を体系的に学ぶ。理論面では水の循環、海流、深層水循環、炭素・リン循環などの地球規模の環境システムを理解し、エルニーニョ現象や海洋酸性化などの環境変動についても学習する。実践面ではイルカをはじめとする海洋生物の行動や適応、生態、調査手法、人との関わりについて学び、「なぜその環境にその生物がいるのか」を説明できる力を養う。また、サンゴ礁、干潟、マングローブ林、岩礁海岸など多様な沿岸環境の特性や日本の生物多様性について理解を深めるとともに、干拓・埋め立て、河川整備、ダム問題など人間活動が自然環境に与える影響を考察し、環境保全や持続可能な社会の重要性を主体的に考える力を育成する。

科	生命科学科	教員	佐崎、多田
コース	水族館ゼミ	教員の実務経験	専門学校教員 33 年
対象年次	2 年	年間単位数	2 単位

目標

(担当：佐崎)

- 生物が生息する環境特性を理解する
- 単に特定の生物を保護するのではなく、生物の多様性と地域特性を守る考えを身に付けることができる。

(担当：多田)

- ・海洋の無機的環境（塩分・光・水温など）と生物の関係について説明することができる。
- ・イルカをはじめとする海洋生物の行動や適応の特徴を具体例を用いて説明することができる。
- ・海洋生物の観察方法や基礎的な調査手法を理解し、簡単な記録やまとめを行うことができる。
- ・海洋生態学の知識をもとに、水族館や調査・保全などの動物業界の仕事について説明することができる。

授業計画

(担当：佐崎)

- 第1回 水の循環（相変化について）
- 第2回 水の循環（圏界面内での循環、酸性雨）
- 第3回 水の循環（酸性雨の海洋の酸性化）
- 第4回 水の循環（潮流）

- 第 5 回 水の循環（海流の仕組み①）
- 第 6 回 水の循環（海流の仕組み②）
- 第 7 回 世界の表層循環
- 第 8 回 エルニーニョと世界の異常気象の問題
- 第 9 回 深層水の大循環の仕組み①
- 第 10 回 深層水の大循環の仕組み②
- 第 11 回 地球環境における深層水の大循環の重要性
- 第 12 回 炭素循環、リンの循環①
- 第 13 回 炭素循環、リンの循環②
- 第 14 回 日本の生物多様性について①（海洋生物の固有種が多い理由）
- 第 15 回 日本の生物多様性について②（海洋生物の固有種が多い理由）
- 第 16 回 自然海岸、半自然海岸、人工海岸の国内比率
- 第 17 回 日本の川の特徴と多自然型川づくりについて①（河川法）
- 第 18 回 多自然型川づくりについて②（粗朶、ロックロール、蛇籠など）
- 第 19 回 サンゴ礁の環境特性
- 第 20 回 マングローブ林などの環境特性、エコトーンと沿岸域の現状
- 第 21 回 砂浜の環境特性
- 第 22 回 岩礁海岸の環境特性
- 第 23 回 干潟の環境特性
- 第 24 回 干拓と埋め立て①（環境影響評価法、エッジ効果）
- 第 25 回 干拓と埋め立て②（ミチゲーションとは）
- 第 26 回 干拓と埋め立て③（ミチゲーション：物理的手法 浚渫、覆砂）
- 第 27 回 干拓と埋め立て④（ミチゲーション：化学的手法 凝結）
- 第 28 回 干拓と埋め立て⑤（ミチゲーション：生物的手法 漁礁、放流）
- 第 29 回 ダム問題とサンドバイパス
- 第 30 回 授業内容の総まとめ

（担当：多田）

- 第 1 回 オリエンテーション（授業概要・教員の経験紹介・海洋生態学を学ぶ意義）
- 第 2 回 海の生き物の分類入門（魚類・哺乳類・無脊椎動物の違い）
- 第 3 回 海洋哺乳類とは（クジラ・イルカ・アザラシの特徴）
- 第 4 回 イルカの体のつくり（流線型・ヒレ・皮膚の機能）
- 第 5 回 イルカの知能と社会性（群れ・遊び・協力行動）
- 第 6 回 イルカのコミュニケーション（音・エコーロケーション）
- 第 7 回 イルカの採餌行動（協力捕食・戦略）
- 第 8 回 御蔵島のイルカ①（環境と生息理由）
- 第 9 回 御蔵島のイルカ②（調査方法：個体識別・観察）
- 第 10 回 御蔵島のイルカ③（現場経験：船上観察・ドルフィンスイム）
- 第 11 回 野生動物調査の仕事（研究者・調査員の役割）
- 第 12 回 水族館のイルカ（飼育・トレーニングの基礎）

- 第 13 回 動物福祉と倫理（飼育と野生の違い・ストレス）
- 第 14 回 前期まとめ（発表・振り返り）
- 第 15 回 後期オリエンテーション（前期の復習・後期の目標）
- 第 16 回 サメとエイの生態（感覚・捕食者としての役割）
- 第 17 回 魚類の行動学（群れ・縄張り・行動の意味）
- 第 18 回 サンゴ礁の生き物（共生関係・多様性）
- 第 19 回 深海生物の世界①（深海環境と生物の特徴）
- 第 20 回 深海生物の世界②（発光・巨大化などの適応戦略）
- 第 21 回 ウミガメの生態（生活史・回遊）
- 第 22 回 海鳥と海の関係（食物連鎖・環境指標）
- 第 23 回 海の世界（生物同士のつながりを理解する）
- 第 24 回 海洋ゴミ問題（プラスチックと生物への影響）
- 第 25 回 気候変動と海の生き物（分布変化・サンゴ白化）
- 第 26 回 人と海の間（漁業・観光・エコツーリズム）
- 第 27 回 フィールドワーク基礎（観察方法・記録の取り方）
- 第 28 回 データのまとめ方（グラフ・簡単な解析・レポート）
- 第 29 回 進路と職業（動物業界・水族館・研究職）
- 第 30 回 最終まとめ（発表・講評）

授業の方法

- * 本講義では、具体的な例を挙げて説明する

教材

- * 授業で使用する教材は、必要に応じて授業内で適宜配布する。

評価の方法

- * 試験 50%、授業への参画 20%、課題への取り組み 30%で総合的に評価する。
- * 前・後期一回ずつ抜き打ちでノートチェックを行う。講義内容だけでなく、事後学習の内容も確認する

授業外での学習方法

- * 事後授業として、授業内で疑問に思ったことを抽出し、自身で調べその結果をノートに書き出そう

実務経験と授業科目の関係

- * 海洋生物（魚類、サンゴなど）の調査・研究の経験あり
- * 環境省 みどりの国勢調査 静岡県 調査責任者（1995 年度）

海洋哺乳類学Ⅱ

授業の目的・概要

海棲哺乳類の解剖学的特徴を理解し、繁殖のメカニズムや罹りやすい疾患について学ぶことで、実際の飼育現場での動物の健康管理や繁殖に役立てることができる。またそれに関連して、海棲哺乳類の輸送方法やトレーニング・エンリッチメントについても体系的に学習する。

科	生命科学科	教員	松田 知奈実
コース	水族館ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2年	年間単位数	1単位

目標

前期

海棲哺乳類の解剖学的特徴を理解することができる。

海棲哺乳類の繁殖について理解することができる。

後期

動物の種ごとの保定方法を理解することができる。

海棲哺乳類の輸送方法を理解することができる。

飼育動物のトレーニングやエンリッチメントについて説明することができる。

飼育下の海棲哺乳類の健康管理について理解することができる。

海棲哺乳類の調査・研究ではどのような方法を用いるのかを理解することができる。

授業計画

前期 15 回

第1回 自己紹介、授業の進め方

第2回 解剖学的特徴① 骨格

第3回 解剖学的特徴② 臓器

第4回 繁殖① 妊娠・出産のメカニズム

第5回 繁殖② 鯨類

第6回 繁殖③ 鯨類

第7回 繁殖④ アザラシ

第8回 繁殖⑤ アシカ

第9回 繁殖⑥ セイウチ

- 第10回 繁殖⑦ 海牛類
- 第11回 繁殖⑧ ホッキョクグマ
- 第12回 繁殖⑨ ラッコ
- 第13回 繁殖⑩ ペンギン
- 第14回 繁殖⑪ 血統管理・試験対策
- 第15回 動物の保定

後期 15 回

- 第16回 輸送① 海棲哺乳類の輸送方法
- 第17回 輸送② 輸送の際の注意点
- 第18回 トレーニング① トレーニングの理論
- 第19回 トレーニング② ハズバンドリートレーニング
- 第20回 海棲哺乳類におけるエンリッチメント
- 第21回 健康管理① 飼育下における基本的な健康管理
- 第22回 健康管理② 鯨類
- 第23回 健康管理② 鯨脚類
- 第24回 健康管理③ 海牛類
- 第25回 健康管理④ ホッキョクグマ・ラッコ
- 第26回 健康管理⑤ ペンギン
- 第27回 調査・研究① 野生個体の研究(鯨類)
- 第28回 調査・研究② 野生個体の研究(その他)
- 第29回 調査・研究③ 飼育施設での研究
- 第30回 海棲哺乳類の飼育員

授業の方法

講義

教材

配布プリント

評価の方法

定期試験 80% 授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

授業内で触れた事柄について、自分なりに調べて理解を深めておく。

実務経験と授業科目の関係

元水族館飼育員(イルカ・アシカ・アザラシ・ペンギンの飼育経験あり)

魚類生理生態学Ⅱ

授業の目的・概要

魚類と総称される生き物について、その生理・生態的特性を理解し、水族館やアクアショップなどで要される「飼育管理・展示解説」ならびに「他者への説明」ができる。その上で、さまざまな魚類の飼育計画を立案することができる。

科	生命科学科	教員	土田
コース	水族館ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2 年	年間単位数	1 単位

目標

【前期】

- ①魚類の生理機能を説明することができる
- ②魚病の種類や治療法を説明することができる

【後期】

- ①魚類の要する生息環境を説明することができる
- ②対象魚種の生理的特性を踏まえて適切な飼育計画を作成することができる

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 環境エンリッチメント
- 第3回 魚類の感覚器官①
- 第4回 魚類の感覚器官②
- 第5回 発光・発電
- 第6回 ホメオスタシス
- 第7回 内分泌系

第 8 回 内分泌かく乱物質

第 9 回 生物濃縮

第 10 回 卵発生

第 11 回 初期成長

第 12 回 育種

第 13 回 初期餌量

第 14 回 餌料の選択・摂食生態

第 15 回 試験範囲説明

第 16 回 行動

第 17 回 種間関係・群集

第 18 回 適応と種分化

第 19 回 生物保護への展開

第 20 回 魚病①

第 21 回 魚病②

第 22 回 魚病③

第 23 回 演習_プレゼンテーション課題への取り組み①

第 24 回 演習_プレゼンテーション課題への取り組み②

第 25 回 演習_プレゼンテーション課題への取り組み③

第 26 回 演習_課題発表①

第 27 回 試験返却・試験の振り返り

第 28 回 演習_課題発表②

第 29 回 年間まとめ①

第 30 回 年間まとめ②

授業の方法

講義・演習

2026 年度

教材

必要な場合配布する。

評価の方法

期末試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

AQUA TEXT をはじめとした生物飼育施設での飼育管理、日常生活における河川や海の観察を行う。

実務経験と授業科目の関係

魚類寄生虫の基礎研究の経験。

生物学特論

授業の目的・概要

水族館の教育活動を実践する体験活動を行うための授業を展開する。小学校の校外授業（川の探検）のサポートを行い、川で採集した生物を持ち小学校に出向き出前授業を行う。

魚類の消化器系・循環器系・呼吸器系の仕組みを学習したのち解剖を行い実際に観察する。これらの知識を飼育・解説に応用できることを目標とする。

科	生命科学科	教員	白井芳弘
コース	水族館ゼミ	教員の実務経験	水族館飼育員・館長
対象年次	2 年	年間単位数	3 単位

目標

- 1 住吉川において春の河口の生物を観察し、冬の生物との違いを理解できる。
- 2 小学校出前授業の教材となる生物を採集する。この生物を用いて小学 3 年生を対象とした解説原稿を作成し、実際に小学校に出向きレクチャーを行う。
- 3 春に海から河口に遡上するアユについて学習し、解剖を通して特殊化した摂餌器官を観察する。
- 4 秋に産卵後死亡したアユを観察。アユの生活史を理解できる
- 5 ウナギの生活史を学習し、
- 6 一連の魚類解剖を通し消化器系・循環器系の働きを理解し、飼育に応用できる。
- 7 飼育魚類の観察を通し、異常を発見し原因を推察。治療を行う技術を身につけることができる。

授業計画

- 1週 小学校出前授業の目的・班編成・解説用のカニの体の名称をおぼえる
- 2週 班活動（解説原稿づくりと役割分担）1 年生授業のため課題
- 3週 春の河口の生物（イシガレイの生活史）を学ぶ、それに伴う魚卵の名称と特徴の学習
- 4週 解説原稿のためにケフサイソガニの生活史を学ぶ
- 5週 校外活動：住吉川の生物採集と観察（出前授業用の生物を採集し飼育する）
- 6週 採集生物の写真配布し説明、班ごとにレクチャー内容・教材作成を行う。
- 7週 班活動（出前授業の解説原稿・教材の準備を行う）
- 8週 班活動（出前授業の解説原稿・教材の準備を行う）・次週の川の観察会サポートのポイント。
- 9週 校外実習：住吉川にて小学生の採集サポートと安全管理を行う。
- 10週 出前授業リハーサル
- 11週 魚崎小学校出前授業（生き物ふれあいと解説を行い生き物の面白さを伝える）

- 12週 出前授業ふりかえり・アユの生物学①
- 13週 アユの生物学② アユの解剖（歯の観察と消化器系を観察する）
- 14週 課題対応（出前授業の反省・アユの観察をまとめる）
- 15週 魚類生理学（肝臓の働きと腸の関係）
- 16週 魚類の生理学（消化器系の名称と働き）
- 17週 アユの生物学③ アユの食物である珪藻の顕微鏡観察を行い写真撮影する。
- 18週 肉食性の魚：サバの解剖と観察（内臓器官の配置と名称を観察する）
- 19週 サバの解剖ふりかえり、アユの消化器官との違いを理解し説明できる
- 20週 アユの生物学④（摂餌生態と縄張り）
- 21週 アユの生物学⑤（通し回遊の形態と名称）
- 22週 校外活動：住吉川にてアユの観察を行い、アユの生活史を理解できる。
- 23週 ウナギの生物学①（ウナギ目の分類と形態）
- 24週 ウナギの生物学②（ニホンウナギの生活史）
- 25週 ウナギの生物学③ マアナゴの解剖と観察（摂餌器官・消化器官の観察）
- 26週 解剖の振り返り・試験範囲の説明
- 27週 深海魚と呼称される魚類の特徴・深海とは・目・内臓
- 28週 課題対応：深海魚の種類と形態を調べる
- 29週 深海魚の解剖と観察（底引き網漁で採取される深海魚を観察し種名検索し解剖を行う）
- 30週 解剖写真配布し名称を入れることができる・2年間の授業のまとめ

授業の方法

講義（対面・遠隔授業）校外実習（小学校出前授業・河口での生物観察）実験（解剖観察）水槽観察

教材

採集生物・解剖写真などの配布プリント

評価の方法

試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する

授業外での学習方法

実習前に目的と方法を再確認する。実習後にメモを見返し写真整理などデータをまとめる

実務経験と授業科目の関係

水族館の教育活動を実践する授業を展開し、魚類飼育のために体のつくりを観察する解剖を通し就職後の即戦力を目指します。

動物行動生態学

授業の目的・概要

動物飼育に際して留意すべき点について適応という観点から考えられるようになる。これは運を天に任せる。思い付きによるものではなく、能動的で根拠のあるものでなければならない。動物の種としてのユニークさ、種を越えた共通点について優劣で比べないようになる。

科	生命科学科	教員	山本 聡
コース	ゼミ	教員の実務経験	有り
対象年次	2年生	年間単位数	1単位

目標

前期 行動の最適化をトレードオフの観点から説明できる。包括適応度が自己の適応度を高められない特に何故重要か理由を指摘出来る。互惠的利他行動の具体的な例を挙げられる。進化や適応といった観点から未来の動物飼育について自分の考えを持つ。

後期 ハンディキャップ理論を具体的な例を挙げながら説明できる。父性について自分の考えを述べられる。ゲーム理論の問題点を指摘できる。平均値が適切な代表値ではない場合を挙げられる。箱髭図が画ける。度数分布表を正しく読める。因果関係が判定できる。

授業計画

[前期授業]

- 1回 対面：生命とは、繁殖と性成熟、性成熟と肉体の成熟。
- 2回 オンデ：進化の方向性、進化は変化、環境の選択、人工的環境の中での進化。
- 3回 対面：個系統、ヒト中心主義、進化の袋小路：個系統と進化の注意点。
- 4回 オンデ：行動の最適化(個体レベル)マルハナバチとムース、表やグラフを読む。
- 5回 対面：最適化とトレードオフ。集団と群れ、社会性の弱い集団と社会性の強い集団。
- 6回 オンデ：集団レベルでの最適化(クロガンと雌ライオン)。

- 7 回 対面：働きバチはなぜ繁殖しないのか、半倍数性生殖と真社会性。
- 8 回 オンデ：血縁に対する利他行動、ハミルトンの法則、包括的適応度、血縁認識。
- 9 回 対面：非血縁に対する利他行動（現代行動生態学の限界）。
- 10 回 オンデ：親から見た適応度、疑似ヘルパー。
- 11 回 対面：互惠的利他行動 ブラックハムレット
- 12 回 オンデ：互惠的利他行動 チスイコウモリ、インバラ
- 13 回 対面：副次的利他行動（みせかけの協力）、フローターとは。
- 14 回 オンデ：様々な繁殖戦略、Feign Behavior、性転換。
- 15 回 対面：前期のまとめ
- 16 回 対面：性選択と進化、突然変異、中立進化、平行進化。
- 17 回 オンデ：コールとソング。
- 18 回 対面：鳴禽類の雄の歌。
- 19 回 オンデ：ハンディキャップ理論とトムソンガゼル
- 20 回 フィッシャーとランナウェイ理論。
- 21 回 動物の社会性(イルカって社会的？ヒヒの複雑な社会)。
- 22 回 ESS と囚人のジレンマ・モデル。
- 23 回 頻度依存と性格、性格はどこからきたか？
- 24 回 データの性質、正規分布、尺度。
- 25 回 3 種類の代表値、平均値。
- 26 回 中央値、箱髭図とその見方・書き方、最頻値。
- 27 回 度数分布表と階級。
- 28 回 相関関係と因果関係、相関を求める。
- 29 回 偏差と母集団
- 30 回 対面：後期のまとめ

講義中心だが学生に質問する時間、学生同士ディスカッションする時間を随時設ける。

教材

必要に応じて学生に紹介。

評価の方法

試験 80%、授業態度 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

授業のコピーではなく、自分の考え、疑問に対する答えをまとめたオリジナルのノートを作る

実務経験と授業科目の関係

ハワイ大学ケワロ湾海洋哺乳類研究所、生物学研究所で海洋哺乳類のトレーニング・ケアとそれらに必要な学問を学ぶ（比較認知学、行動生態学、実験計画・研究法など）。

帰国後は沖縄海洋研究所や淡島マリンパークなどで動物のトレーニング・ケアにかかわりながら飼育担当者の養成、アドバイスを行う。

動物認知心理学

授業の目的・概要

近年、水族館や動物園において、又、動物飼育における環境、行動エンリッチメントに続く第 3 のエンリッチメントとしても認知という語がもてはやされている。しかし認知という語は専門家の間でも幅広く曖昧である。認知とは狭義では頭の中に浮かんだ事を頭の中だけで操作する能力や抽象力、自分の事について客観的に考える能力である。けれども動物が何について考えているかよりも、動物の気持ち(情動)、つまり何が好きで嫌いか、何がしたいかを知ることが先決であり、認知というと人間中心な考え方にとらわれがちである。本授業では進化の視点を重視し、動物と何をしたいかという観点から、ただ眠っているだけの動物の認知能力の覚醒や新たな認知能力の開発を考える。このためには動物の認知を知るよりも、動物の気持ち(情動)を理解することが重要となることはいうまでもない。授業クラスのタイトルは比較認知だが動物と分かり合うために認知以前に重要なこと様々な認知能力の基盤となるものは動物の学習能力以外に何があるかを探し求める。

科	生命科学学科	教員	山本 聡
コース	SEA ゼミ	教員の実務経験	有り
対象年次	2 年生	年間単位時間	2 単位

目標

前期 情動と感情の違いについて自分なりの根拠ある意見を持つ。心の理論について一般的な定義を説明出来る。様々な記憶について(感覚、短期、長期、意味、エピソード、ワーキング)正しく区別し、定義できる。ソマテックマーカ一説を理解し、理性について自分の意見を持つ。

後期 動物が道具を使っているか物を使って遊んでいるか適切に判定できる。幼獣にとっての「遊び」の重要性を理解しそのわけを説明できる。成獣にとっての遊びの機能について考えられる。「おもちゃ」を自分なりに定義する。動物の潜在能力について適切に注目できるようになる。

授業計画

- 1 回 対面：認知とは
- 2 回 オンデ：認知とヒトの言語、自意識。
- 3 回 対面：擬人化、人間中心主義。
- 4 回 オンデ：情動と感情、情動脳と Paul MacLean, 新皮質と理性。
- 5 回 オンデ：様々な記憶、記憶と情動、ダマシオの仮説。(2 年研修のため学級の半分休講)
- 6 回 対面：問題解決・認知・見通し、James Russell の快、不快の次元、ホメオスタシス。
- 7 回 クレイトンの記憶の実験と認知地図。1 年は研修のため半分のクラスは休講。
- 8 回 対面：心の理論とクレイトンの試み
- 9 回 オンデ：賢いハンスとモーガンの公準、オッカムの剃刀とザトウクジラの歌・ガゼルのストテイング。
- 10 回 オンデ：誤信念とサリーとアン・テスト、アタッチメントと対象の永続性
- 11 回 対面：視線と何を見ているか、何を考えているか。
- 12 回 オンデ：目印を使う：ビーコンとデッドレコニング、道順と地図
- 13 回 対面：リストとリスト間の関係
- 14 回 オンデ：モーリスの水迷路、カケスの実験、ハゼの実験。
- 15 回 対面：前期のまとめ。
- 16 回 対面：ピアジェの心の発達段階説と対象の永続性、ハーロウの実験
- 17 回 オンデ：動物の対象の永続性、アタッチメントと動物飼育、ボウルビィとアタッチメント
- 18 回 対面：模倣と観察学習としての模倣学習、ホワイトウンの実験。
- 19 回 オンデ：イモの食物を洗ってから食べる行動、ケーラーと洞察学習。
- 20 回 対面：コピー、伝染、あくび
- 21 回 オンデ：刺激強調と社会的距離。
- 22 回 対面：疑似模倣と意図性。
- 23 回 オンデ：遊ぶ動物とは、飼育と遊び、「おもちゃ」の注意点。
- 24 回 対面：幼獣の遊びと成獣の遊び。
- 25 回 オンデ：遊び行動の判定。
- 26 回 対面：遊び行動のさそい、セルフハンディキャップ、カーミングシグナル。

27 回 オンデ：動物の道具の使用、道具を使用しているかの判定、道具は道具。

28 回 対面：様々な動物の道具の使用、道具と文化、道具と身体。

29 回 オンデ：要・不要、顕在能力と潜在能力、動物飼育の未来と道具の使用。

30 回 対面：後期のまとめ

授業の方法

講義中心だが学生に意見を聞いたり、学生同士でディスカッションしたりする時間を随時設ける。

教材

特に無し。読んでおいた方が良いものは必要に応じて学生に紹介。

評価の方法

試験 80%、出席率・授業態度 20%。

授業外での学習方法

授業のコピーではなく、自分の考え、疑問に対する答えをまとめたオリジナルのノートを作る。

実務経験と授業科目の関係

ハワイ大学ケワロ湾海洋哺乳類研究所、生物学研究所で海洋哺乳類のトレーニング・ケアとそれらに必要な学問を学ぶ(比較認知学、行動生態学、生物学など)。

帰国後は沖縄海洋研究所や淡島マリンパークなどで動物のトレーニング・ケアにかかわりながら飼育担当者の養成、アドバイスを行う。

両生爬虫類学 II

授業の目的・概要

本授業では、一年に学んだ基礎の延伸として、飼育に関わる両生爬虫類の多様性を学ぶ。また、後半では、両生爬虫類に関連する学術論文を輪読することで最新の研究内容を知り、研究計画の構築と論理的な考察ができるようになる。

科	生命科学科	教員	原仕大朗
コース	水族館ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2 年	年間単位数	1 単位

目標

前期

両生爬虫類の飼育に係る餌や繁殖を理解することができる。

多様な種の生活史を理解して、飼育現場におけるメンテナンス及びトラブル処理ができるようになる。

後期

両生爬虫類に関する文献を輪読する。

データの取得・整理・報告に関する手法に習熟し、自身も調査・研究計画を作成できるようになる。

また、問題に対する論理的考察ができるようになる。

授業計画

- 1 回 ガイダンス
- 2 回 両生爬虫類学
- 3 回 両生類の基礎
- 4 回 爬虫類の基礎 1

- 5 回 爬虫類の基礎 2
- 6 回 両生類の摂餌
- 7 回 両生類の防御
- 8 回 爬虫類の摂餌
- 9 回 爬虫類の防御
- 10 回 両生類の繁殖
- 11 回 爬虫類の繁殖
- 12 回 遺伝
- 13 回 多様性と保全
- 14 回 調査方法
- 15 回 実際の研究
- 16 回 前期試験の振り返り
- 17 回 学術文献の調べ方
- 18 回 学術文献の発表の仕方
- 19 回 輪読計画の作成
- 20 回 学術文献の輪読
- 21 回 学術文献の輪読
- 22 回 学術文献の輪読
- 23 回 学術文献の輪読
- 24 回 学術文献の輪読
- 25 回 学術文献の輪読
- 26 回 学術文献の輪読
- 27 回 学術文献の輪読
- 28 回 学術文献の輪読
- 29 回 輪読結果の総括
- 30 回 後期試験の振り返り

授業の方法

講義

教材

必要に応じて参考資料を配布する。

評価の方法

試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

生物飼育施設での飼育管理、日常生活において生き物の観察を行いながら疑問を持つ

実務経験と授業科目の関係

あり

フィールドワーク概論Ⅱ

授業の目的・概要

本授業では、水族館飼育員をはじめとする水生生物関連分野で活躍するために必要な、フィールドワークの基礎知識を習得することを目的とする。河川、湖沼、海洋などの水域環境の特徴や生態系の仕組みを理解するとともに、水生生物の分類や生態、環境保全に関する知識を学ぶ。また、水質調査や生物調査の基本的な手法、調査データの記録・整理・活用方法について理解を深める。さらに、外来生物問題や生物多様性保全、環境教育における水族館の役割について考察し、自然環境と人との関わりを多角的に学ぶ。授業を通して、水族館飼育員に求められる自然観察力や環境理解力、科学的な視点を養い、将来の飼育・展示・教育活動に活かせる基礎的な知識と考察力を身につけることを目指す。

科	生命科学科	教員	吉原
コース	水族館ゼミ	教員の実務経験	-
対象年次	2 年次	年間単位時間	2 単位

目標

- ・水域環境（河川・湖沼・海洋）の特徴と生態系の仕組みについて説明できる。
- ・水生生物の分類や生態、環境保全に関する基礎知識を身に付ける。
- ・水質調査や生物調査の基本的な手法と調査データの活用方法を理解し、説明できる。
- ・水族館飼育員に求められる自然観察力や環境理解力を身に付け、飼育・展示業務との関連を考察できる。

授業計画

第 1 週	前期オリエンテーション
第 2 週	フィールドワークとはー目的と意義
第 3 週	日本の水域環境の特徴（河川・湖沼・沿岸域）

第 4 週	水域生態系の基礎知識
第 5 週	水生生物の分類と生態
第 6 週	フィールドワークにおける安全管理とリスクマネジメント
第 7 週	水質調査の基礎（pH・溶存酸素・塩分濃度等）
第 8 週	生物調査法の基礎 ①— 目視観察と記録方法
第 9 週	生物調査法の基礎 ②— 採集手法と調査機材
第 10 週	外来生物と生態系保全
第 11 週	環境データの整理と活用方法
第 12 週	水族館とフィールドワークの関わり
第 13 週	地域環境と保全活動の事例研究
第 14 週	前期のまとめ・振り返り
第 15 週	後期オリエンテーション
第 16 週	海洋環境の基礎知識
第 17 週	河川・湖沼環境の基礎知識
第 18 週	プランクトン調査の基礎
第 19 週	底生生物調査の基礎
第 20 週	魚類調査の基礎とデータ活用
第 21 週	希少種保全と生物多様性
第 22 週	水域環境の変化と人間活動の影響
第 23 週	環境教育と水族館の役割
第 24 週	調査結果のまとめ方と報告書作成
第 25 週	フィールドノートの活用方法
第 26 週	国内の代表的な水域環境事例研究 ①（河川）
第 27 週	国内の代表的な水域環境事例研究 ②（湖沼）
第 28 週	国内の代表的な水域環境事例研究 ③（海洋）
第 29 週	水族館飼育員に求められるフィールドワーク能力
第 30 週	後期のまとめ・総括

授業の方法

講義形式を中心に進めていくが、内容に応じてグループワーク等を取り入れていく。

教材

特に指定はないが、必要な資料を自作し、適宜配布していく。

評価の方法

試験 60%、課題提出 20%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習では、授業で扱う水域環境や水生生物、環境保全に関する基礎用語や関連資料を確認し、学習内容の概要を把握しておくこと。事後学習では、授業で学んだ内容をノートや配布資料を用いて整理し、水族館業務や実際のフィールドワークとの関連性について考察する。また、調査手法や環境問題に関する事例を自主的に調べ、理解を深めること。

実務経験と授業科目の関係

アナウンス演習Ⅱ

授業の目的・概要

本授業では、動物園や水族館のショーなどで活躍するパフォーマーに必要な基礎的な力に触れることを目的とする。専門的な技術の習得よりも、人前で話すことに慣れ、声を出す、笑顔で伝える、相手に分かりやすく話すといった基本的なコミュニケーション力を身につけることを重視する。授業では、あいさつや簡単なアナウンス練習、ショーのまね、ミニ発表などを通して、無理なく段階的に経験を積む。また、イルカの研究や現場の話を題材に、「専門的な内容をやさしく伝える力」についても学ぶ。最終的には、簡単なショー形式の発表を行い、自分の言葉で伝える達成感を得ることを目指す。

科	生命科学科	教員	多田 光里
コース	水族館ゼミ	教員の実務経験	・
対象年次	2 年次	年間単位数	1 単位

目標

- ・あいさつや返事などを通して、基本的な発声を行うことができる。
- ・人前で短いアナウンスや自己紹介を行うことができる。
- ・笑顔や声の大きさ、話す速さを意識して、相手に分かりやすく伝えることができる。
- ・簡単なショー形式の発表に参加し、自分の役割を果たすことができる。

授業計画

第 1 回	前期オリエンテーション（安心して参加するルール）
第 2 回	あいさつ練習（声を出す・返事）
第 3 回	声の出し方（姿勢・呼吸）
第 4 回	ゆっくり話す（短い文を読む）
第 5 回	笑顔の練習（第一印象）
第 6 回	自己紹介（名前＋好きな動物）

第 7 回	かんたん な ア ナ ウ ン ス ①	(読 む だ け)
第 8 回	かんたん な ア ナ ウ ン ス ②	(少 し 長 く)
第 9 回	見 る 力 ①	(シ ョ ー 映 像 を 見 る)
第 10 回	見 る 力 ②	(良 い と こ ろ を 見 つ け る)
第 11 回	ま ね し て み る ①	(短 い フ レ ー ズ)
第 12 回	ま ね し て み る ②	(動 き + 声)
第 13 回	ミ ニ 発 表 ①	(10 ～ 20 秒)
第 14 回	ミ ニ 発 表 ②	(少 し 慣 れ る)
第 15 回	課 題 ー 「 イ ル カ と 人 と の コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン を 考 え る 」	
第 16 回	後 期 オ リ エ ン テ ー シ ョ ン	(目 標 確 認)
第 17 回	声 ・ 笑 顔 の 復 習	
第 18 回	聞 き や す い 話 し 方 (間 ・ 強 弱)	
第 19 回	イ ル カ の 話 を し て み よ う (や さ し く 伝 え る)	
第 20 回	船 の 仕 事 ・ 現 場 の 話	
第 21 回	お 客 さ ん に 伝 え る に は ? (専 門 → や さ し く)	
第 22 回	シ ョ ー の 流 れ を 知 る (導 入 ・ 盛 り 上 げ)	
第 23 回	簡 単 な MC ①	(あ い さ つ)
第 24 回	簡 単 な MC ②	(説 明 ・ つ な ぎ)
第 25 回	お 客 さ ん と の や り と り (声 が け)	
第 26 回	ト ラ ブ ル 時 の 対 応 (迷 子 ・ 注 意)	
第 27 回	ミ ニ シ ョ ー づ く り ①	(グ ル ー プ ・ ま ね OK)
第 28 回	ミ ニ シ ョ ー づ く り ②	(練 習)
第 29 回	ミ ニ シ ョ ー づ く り ③ (通 し)	
第 30 回	課 題 ー 「 自 分 が や っ て み た い シ ョ ー ・ 伝 え た い こ と 」 (絵 ・ 文 章 ・ 発 表 な ど 自 由 形 式 OK)	

授業の方法

演習形式を中心にグループワークを取り入れ、実践的な学びとなるよう進めていく。

教材

必要な資料を作成し、授業中に配布していく。

評価の方法

試験(発表)80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

動物園や水族館のショーを参考に、話し方や表情、伝え方の工夫を観察し、自分の課題や目標を整理することを事前学習とする。事後学習として、発声やアナウンス練習を振り返り、相手に分かりやすく伝える話し方を意識して復習し、次回に向けて改善点を確認しておくこと。

実務経験と授業科目の関係

-